

やまぎん

# アジアニュース

平成 30 年 7 月

●釜山支店Tel010-82-51-462-3281 ●青島支店Tel010-86-532-85766222 ●大連支店Tel010-86-411-83705288  
●香港駐在員事務所Tel010-852-2521-7194



【青島支店】

## 上海協力機構会議の開催について

### 1. 上海協力機構会議・青島サミットの開催

2018年6月9・10日に青島市にて上海協力機構（以下SCO）の首脳会議が開催されました。カナダで開催されたG7と同じ日程にもかかわらず、ロシアのプーチン大統領、インドのモディ首相、イランのロウハニ大統領等8カ国の首脳が出席した同会議の内容は期間中、上海で連日テレビ報道されました。

青島市で国際会議が開催されるのは2014年5月に開催されたアジア太平洋経済協力（APEC）高級実務者会合以来、4年ぶりのことで、開催準備にあてられた資金は1,000億円（約1兆7,000億円）と言われており、開催の約半年前から道路整備や会議場の建設、イルミネーション設営や花壇の整備などが施されました。市内の景観は以前と比べて見違えるように変化しました。



今回のSCOサミットは、18回目の開催となります。アメリカのトランプ大統領による保護貿易主義などの政策で意見対立が起きていたG7の対抗軸として、アフガニスタン紛争やシリア内戦問題の他、北朝鮮核問題やイラン核問題などについて協議され、加

盟国共同で問題解決に取り組む姿勢が示されました。加盟国の一国であるロシアのプーチン大統領が、人口や購買力などでG7を上回るSCOの枠組みを重視する発言をしており、世界に対する影響力も徐々に拡大しているように思えます。また、習近平国家主席が声高にアピールしている「一帯一路」構想についても議題として大きく取り扱われており、SCO参加国が同調の上、実現に向けて進んでいくという意思が示されました。

## 2. 上海協力機構とは

SCOの正式加盟国は、中国、カザフスタン、キルギス、ロシア、タジキスタン、ウズベキスタン、インド、パキスタンの8カ国ですが、オブザーバー国や対話パートナー国を含めると18カ国によって構成されています。正式加盟国8カ国の主要データは下表の通りで、G7と比較してもその影響力の大きさが窺えます。



### <SCO>

国土面積： 34,300,820 km<sup>2</sup>  
 GDP： 27兆7,416億ドル  
 総人口： 31億8,895万人

### <G7>

国土面積： 21,445,313 km<sup>2</sup>  
 GDP： 33兆6,485億ドル  
 総人口： 7億5,933万人

SCOの国土面積は世界の約23%（G7は約14%）、GDPは世界の約37%（G7は約45%）、総人口は世界の約43%（G7は約10%）を占めており、世界からの注目度も高

まっています。また、国土面積、総人口で G7 を上回っており、GDP についても中国を筆頭に成長の余地はまだまだあり、いずれは G7 を凌駕するような存在になる可能性が高いと思われます。

### 3. 「一带一路」の実現に向けて

「一带一路」とは中国西部から中央アジアを経由してヨーロッパにつながる「シルクロード経済ベルト（一带）」と中国沿岸部から東南アジア、スリランカ、アラビア半島の沿岸部、アフリカ東岸を結ぶ「21 世紀海上シルクロード（一路）」の 2 つの地域でインフラ整備、貿易促進、資金の往来を促進する計画で、2013 年に習近平国家主席が唱えた構想です。

SCO においても積極的に議論が進められており、今回の会議でも議題として多く取り扱われました。当初は中国とロシアを中心に構想を膨らませてきましたが、現在では、多くの国が賛同の意を表明するなど実現に向けて少しずつ進んでいます。アメリカや日本についても「一带一路」への協力に対して前向きな発言もするなど大きく移り変わろうとしています。



ただし、各国間の歴史的、政治的しがらみもあり、構想の実現にはいくつもの問題が山積みになっています。特に SCO 加盟国でもあるインド

は、「主権と領土保全における革新的な懸念がある」として、同構想を強く批判しています。また、東南アジア諸国でも意見が分かれており、推進派、慎重派、否定派で意見が対立しています。

2016年コンテナ取扱量上位10港一覧

順位	前年順位	港名	年間取扱量 (万TEU)
1	1	上海(中国)	3,713
2	2	シンガポール	3,090
3	3	深圳(中国)	2,398
4	4	寧波(中国)	2,156
5	6	釜山(韓国)	1,985
6	5	香港(中国)	1,981
7	7	広州(中国)	1,886
8	8	青島(中国)	1,801
9	9	ドバイ(アラブ首長国連邦)	1,477
10	10	天津(中国)	1,449

#### 4. 最後に

一昔前、中国は「世界の工場」と呼ばれ、安価な人件費と巨大な労働力を強みに安価な製品輸出を拡大すべく多くの製造工場が進出していました。しかし、近年は強みの人件費も年々上昇し、労働力の確保も難しくなっています。昨今の状況下では、より人件費が安価な東南アジアへの製造拠点のシフトや中国からの撤退が増加しており、中国国内市場は製造拠点としてよりも消費市場としての注目度が増してきています。この状況下において「一带一路」構想は、自由貿易を推進する一面もあり、中国はもちろんのこと東南アジアを中心とする周辺各国にとっても大きなビジネスチャンスに発展する可能性があります。

現在、2016年の世界コンテナ取扱量ランキングの上位10港中、7港を中国の港が占めており（「青島港・1,801万TEU/年・世界第8位」「大連港・961万TEU/年・15



位」「日本最上位は東京港・470万TEU/年・31位」)、中国の港湾物流はアジアの海上輸送の出入口として圧倒的な力を有しております。今後、「一带一路」構想が実現すれば、陸上輸送の起点も加わることで世界の物流に更なる影響力を保有することになります。

#### 【青島港】

また、弊社支店所在地の青島、大連についても物流面のみならず、様々な分野での更なる発展が期待され、ビジネスチャンスの拡大にも期待が持てます。このようなビジネスチャンスを見逃さないため、G7の関係動向と同様にSCOの動向についても確認していくことをお勧めします。

以上

---

<参考文献>

Wikipedia 「上海協力機構」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/上海協力機構>

Wikipedia 「一带一路」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/一带一路>

<参考統計>

Wikipedia 各国統計データ

<https://ja.wikipedia.org>

元航海士が語る港湾物流の話 2016年政界のコンテナ港ベスト50

<https://sea-logistic.sakura.ne.jp/category6/entry97.html>